

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

幼稚園・学校番号	20296
施設名（園名等）	2029413

1. 活動のテーマ

<テーマ>

砂場遊び ～砂の感触や変化を楽しみながら、友だちと関わって遊びを広げる～

<テーマの設定理由>

4歳児・5歳児において、砂や水といった不定形な素材への興味が非常に高く、日々ダイナミックな遊びが展開されています。子どもたちが主体的に遊びを構想し、友だちと協力（協同性）しながら、崩れたり流れたりする課題に対して試行錯誤する姿を支えたいと考え、本テーマを設定しました。

2. 活動スケジュール

- ・ 2月初旬（導入・探索）：砂や水の特性を存分に味わい、個人や小集団で好きなものを作る。
- ・ 2月中旬（展開・協同）：大きな山や長い川作りなど、友だちと協力が必要な活動への発展を促す。
- ・ 3月（深化・振り返り）：前日の続きができる環境を整え、より複雑な構造物への挑戦や、活動の振り返りを行う。

3. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・活動のために準備した素材や道具、環境の設定
- ・活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり 等を記載ください。

環境・道具の設定:

大きな山作りや川作りに必要な十分な量の砂と水を準備。シャベル、バケツ、樋（とい）などの道具を自由に使えるよう配置し、子どもが自ら遊びを構成できる環境を整えました。また、遊びが翌日も継続できるよう、場所の維持にも配慮しました。

子供の姿・教諭との関わり:

子どもたちは「もっと高くしたい」「水を遠くまで流したい」と試行錯誤を繰り返しました。保育者は完成形を提示せず、子どもの発想を尊重しながら「どうすれば崩れないかな?」と問いかけを行い、必要に応じて仲立ちをして役割分担や順番待ちを促しました。



4. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

タブレット端末で写真や動画を記録し、保育者間で分析することで、子どもたちの小さな発見や言葉にできない思考のプロセスを再確認することができました。

特に、降園前に「楽しかったこと」や「次にやりたいこと」を共有する時間を設けたことで、翌日の活動への意欲がより主体的なものへと変化していく様子が見られました。保護者に対しても、結果だけでなく、この「試行錯誤の過程」を伝えることの重要性を実感しました。